

慶応三年七月三日より慶応三年七月七日まで

P8310696 right

(二川)十二時前二夕川午休、吉田宿にては領主家来出役ありし処、全く見落し不調法の段、

諸家来へ

(赤坂)申断りを述し旨、六時過赤坂着

四日卯 晴

第四時半前、赤坂出立、岡崎にては先払同心兩人出ず、(直に断る)□払人足兩人出(半途より断る)

矢矧橋際に家

(池リフ)来、老入出役、一時過池鯉鮒午休、宿入口領主家来(代官)問屋場前同老入(人馬役)出役

先払

(宮)足輕兩人出、鳴海絞り買入旁有松村小休、第七時過宮着、坂地旅宿割御目付へ達

の儀に付、佐次(兵)、金五郎追に来る、金五郎には不面、尾州候より使者被差越不面

五日辰 晴

当午駕中暖度九十四度(摂氏三十四度)

馬船差支え趣に付、馬は佐屋廻しに取計う、第六時半前(宮)出帆半途より風止□帆十一時

P8310696 left

(桑名)過桑名着船、供船とも二艘の水主へ老方遣す、同宿午休、□番所下座、先払足輕兩人出

(四日市)是は断る(問屋場前家来兩人出役有し、五時前四日市着、鰻を試む甚佳ならず)

六日巳 陰雲(溽暑*1)

(関、土山)暁第四時前四日市出立、亀山にては番所下座、先払足輕兩人出、十一時半

関午休、五時過土山着

当宿出張いたし居とて中川(亮)より鮎一□、茶一箱を贈り越し、同人並林(銀兵衛)同道来り

面す

七日午 晴入夜(雲雨)(こさめ)

(石部)暁第四時前、土山出立、水口にては家来出役(先払なるべし)ありし旨断りし旨也、

十一時半前石部午休、草津より

(大津)道を右折し船を賃して矢橋を航し五時半前大津着(船□六十丁の趣一□間にて着船)

明日の登城齋。

多吉へ老書届方御用長持取扱方等の義に付、佐次兵衛へ才輔遣す、坂地旅宿わり御目付
より

*1:溽暑(じよくしよ)、湿度が高く蒸し暑いこと(溽暑)

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。